

市立旭川病院 医療連携NEWS

No.12 2016.5.11

地域医療連携課からのご案内

日頃より患者様をご紹介いただき、地域の医療機関の皆様には心より感謝を申し上げます。当院では、地域医療連携課を通して地域の医療機関の皆様からの受診予約を承っております。受診予約を行うことで、患者様の待ち時間短縮につながりますので、当院にご紹介いただく際にはぜひご活用ください。

ご予約方法

①「予約申込書」に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください



②「受付確認票・受診予約票」をFAXで返信いたします



③受診予約票を切り離し、紹介状（診療情報提供書）とともに患者様へお渡しください

- 受付時間は月曜日から金曜日（祝日を除く）の8：30～17：00です。
- 17：00以降にいただいたお申込みについては、翌日（もしくは休日明け）の対応となりますのでご了承ください。
- 予約申込書は当院ホームページからダウンロードしていただくか、地域医療連携課へお問い合わせください。
- 院内で調整を行い15分程度で返信いたします。状況により時間を要する場合には、その旨を電話にて連絡いたします。

地域医療
連携課

市立旭川病院 地域医療連携課
電話 0166-72-4002（直通）
FAX 0166-26-0008（直通）



薬剤科のご紹介

現在、我が国において薬価収載されている医薬品は約16000品目とも言われており、名称・外見の類似した薬剤も少なくありません。それに伴う、薬品の取り違えや過大・過小投与による医療事故は、患者に多大な不利益を与える可能性があります。これを未然に防ぎ、安心・安全な医療を提供することが薬剤師の責務です。

当院では現在、薬剤師13名が勤務しています。当科では、①正確な調剤を行う、②薬剤の適正使用を推進する、③質の高い情報を提供する、の3点を目標としており、薬剤師法に掲げる薬剤師の任務を遂行しています。加えて、院内感染対策チーム（ICT）、緩和ケアチーム（PCT）、栄養サポートチーム（NST）など各種チームへの参画、および薬学生の研修受け入れや、治験関連業務なども行っています。

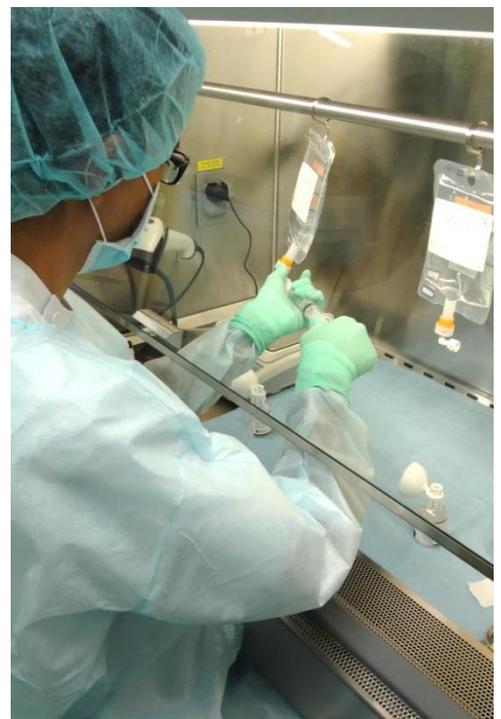
さらに、安全かつ効果的な治療に貢献していくため、医薬系知識の集積、学会・講演会などの参加、そして各専門分野の認定取得を目指し、自己研鑽に努めています。また、出張健康講座や百寿大学の講師として、医薬品の情報提供を通じた地域貢献をしています。講演内容は、「お薬と上手につきあう方法」と題して、薬の正しい服用方法、後発医薬品について、健康食品と医薬品、かかりつけ薬剤師の話などです。

認定・専門薬剤師取得状況

- ・日本医療薬学会認定指導薬剤師
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構糖尿病療養指導士
- ・日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会認定指導薬剤師
- ・日本腎臓病薬物療法学会腎臓病薬物療法認定薬剤師

施設認定

- ・日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設



調剤室

1日平均処方箋枚数(平成26年度)は、院外処方箋発行数510枚(約85%)であり、それ以外の処方箋(外来83.7枚/日・入院212枚/日)に対して調剤を行っています。それらの業務を行うにあたり、電子カルテと自動錠剤分包機、散薬監査システムなどの各種システムを統合し、調剤過誤防止のためのシステム化がなされています。

また、平成24年度より調剤サポート箋を導入しています。調剤サポート箋とは、処方箋発行時に薬袋印字機から薬袋、薬の説明書、お薬手帳貼付用ラベルと一緒に出力され、薬剤の画像、ハイリスク薬剤の服用歴、処方内容、調剂量、薬剤コードなどの情報が記載されたものです。そして、患者ごとの情報も入力可能であり、全スタッフが情報共有することで、ミスを最小限に抑えることができます。

今後は、新たな調剤支援システムの導入など、さらなる調剤過誤防止対策や薬物間相互作用の強化を図って行きたいと考えています。

薬品情報室

主な業務として、全ての医療従事者に対して医薬品情報の収集・整理および伝達・発信や、院内採用医薬品集・DIニュース作成などを行っています。

また、臨床薬剤業務の支援および入院時持参薬の確認、副作用情報等の収集・報告ならびに院内への周知、治験事務局の担当、治験審査委員会への参画、医薬品の製造販売後調査への関与、医薬品・家庭用品・農薬等の中毒情報の収集・伝達など多岐にわたる業務も行っていきます。

患者あるいは医療スタッフに迅速かつ正確な薬剤情報を提供できるよう、リアルタイムな情報収集に努めております。

薬品管理室

主な業務として、医薬品の購入・供給・在庫管理、入院患者の定期注射処方箋調剤ならびに各部署からの医薬品請求に応じた払い出しを行っています。当院では、注射薬自動払出装置を採用することで、正確な調剤かつ高効率化が図られています。また、適正な在庫管理を行うことで、院内各部署への円滑な薬品供給を行っています。

当院で採用する注射薬は約700品目、内服薬などの処方薬は約1300品目あり、その購入金額は20億円(平成26年度)を超えるため、医薬品の適正管理は、医療資源の節約や病院経営に重要な役割を果たしています。

製剤室

主な業務として、注射薬無菌調製、院内特殊製剤調製、がん化学療法レジメン管理を行っています。無菌調製を行うにあたり、無菌室内には100%排気型安全キャビネット1台とクリーンベンチ2台を設置しております。がん化学療法委員会にて承認を受けてレジメンシステムに登録された注射抗がん剤およびTPN(高カロリー輸液)製剤を調製しています。注射抗がん剤無菌調製においては、24時間対応とし、注射抗がん剤調製支援システムを導入することで、調製ミスを無くす努力をしています。

さらに、日本医療薬学会認定がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師が在籍し、専門知識を生かしたがん化学療法レジメン管理や外来化学療法センター専任業務を行うことで、レジメンのチェックならびにがん患者の薬剤指導など、安心かつ安全な薬物療法の遂行に大きく貢献しています。

また、湿性製剤室内には蒸留水製造装置やオートクレーブ(滅菌装置)などを設置しています。院内特殊製剤調製業務においては、約30品目の製剤を調製することで、医師の要望に対応しています。

医師紹介 ～私の履歴書～

糖尿病・代謝内科診療部長 宮本 義博



平成17年10月より糖尿病・代謝内科に勤務しております。

出身は釧路市で釧路湖陵高校を卒業するまで釧路に住んでおりました。平成2年に旭川医科大学を卒業し、第二内科（現・病態代謝内科学分野）に入局致しました。入局後は大学附属病院、日鋼記念病院、旭川赤十字病院、札幌厚生病院などで勤務しておりました。当院の前任地は旭川赤十字病院でした。

私の担当分野は主に糖尿病であり、その中でも糖尿病性神経障害を専門としてきました。

糖尿病性神経障害は、糖尿病性合併症のなかで最も早期に発症するとされており、高頻度に見られる最小血管障害です。日本糖尿病対策推進会議より平成20年3月に発表された「日本における糖尿病患者の足外観異常および糖尿病神経障害の実態に関する報告」では、アキレス腱反射と振動覚の両方の検査が実施された67114例の47.1%が糖尿病神経障害と診断され、そのうちの40.3%が症状はないがアキレス腱反射・振動覚がどちらも異常である無症候性神経障害であったと報告されています。糖尿病神経障害は進行すると患者のQOLを著しく低下させ、生命予後を短縮させますので、早期に診断し介入していくことが重要です。

診断および重症度判定には感覚・運動・自律神経の評価が必要なため、多忙な診療現場では実施困難なことが多いと思われます。当院では、神経伝導検査（NCS）、皮膚組織還流圧（SPP）等を施行可能ですので、是非ともお気軽にご相談ください。

お知らせ

市立旭川病院では、毎年行っている「地域医療連携のつどい」を今年も開催いたします。

講演会は「メスに頼らない内科診療—分子標的治療から全人的医療まで」をテーマに、当院の医師3名による講演を予定しており、情報交換会では立食による地域の医療機関の皆様との交流の場をご用意させていただきます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時 平成28年5月30日（月）18：30～21：00

会場 旭川グランドホテル（旭川市6条通9丁目）

講演会 3階「彩雲の間」18：30～19：45頃

情報交換会 3階「景雲の間」講演会終了後



すでに、参加申込みのご案内は別途お送りしております

